



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 井上 富雄
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



年頭にあたり

歯科病院長 岡野 友宏

皆様には素晴らしい新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

本学歯学部は昭和52年の創設から35年余りを経過しました。最初の10年は皆、新しい学部、病院づくりに専念し、忙しくも充実したときを過ごしたことでしょう。その後の10年はいわば青年期、自らを主張する成熟のときでした。時間的な余裕ができ、大学院生が増加して研究が根付き、また病院では診療スタッフの充実に伴い、新たな医療技術の開発や臨床研究もできるようになりました。この時期はまた、大学設置基準の見直し、いわゆる大学の綱目化が提唱されたときでもありました。その目的は高等教育の個性化・多様化を促進することにあり、大学の自由度が増す一方で自己点検・評価と相互評価システムが導入されました。そして最近の15年余り、これはまさに医療教育を変革するときでした。医療チームの一員として診療に参加して経験を積みながら学習する診療参加型臨床実習の導入、医療面接・診療技能教育の必要性が指摘されました。本歯学部・歯科病院も様々な試行を繰り返し、ふさわしい教育を探索してきました。時とともに進化するものを対象としていますから、総論的には完成ということがなく評価が難しいともいえます。個々の事象、例えばPBLチュートリアルを今後どのように展開するのかを検討する場合には、これまでの経緯を素直に見直ししなければなりません。反省点があるとするれば、その多くが事前に予測されたものであったとしても、体験を通じてあらためてその困難さが認識されたものもあります。これらは財産として後に伝えなければなりません。

歯科病院はその存在する理由の第一が学生・研修医の初期臨床教育にあります。その教育にふさわしい患者さんの確保は何よりも重要です。地域の歯科医師会の先生方との病診連携に本院が何よりも力を入れる理由がそこにあります。同窓の支援も同じくらい重要です。待っていても患者さんは来てくれないからです。そのためには地域からも、患者さんからも「愛される」歯科病院でなくてはなりません。先生方、コデンタルの方々、事務方が一緒になってこの課題に取り組んできました。定期的な病院セミナーや勉強



会、泊まりがけのワークショップなどを通じて、少しずつ病院を、そして互いを理解するようになりました。しかしこうした努力が外向きに力になっているかといえば、まだ不十分です。これから先はこれまでとは別な方法を考える必要があるかも知れません。この1月から3月まで歯科病院で行われる医療マネージメントに関するセミナーには高い関心があるようですが、こうした機会を積極的に利用して欲しいと思います。その後は歯科病院を例にした実践的なセミナーを考えてもいいかもしれません。いずれにせよ診療科長には臨床教育の重要性を歯科病院の実態とともに再認識して頂き、その上でリーダーシップを発揮してスタッフに道筋を示し号令して欲しいものです。スタッフには個々の責任で自主的に行動して欲しいのです。「愛される」ためには全員が力を合わせなければなりません。多くの患者さんを確保すればするほど、初期の臨床教育を充実できますし、そうすれば大学病院の第二の目標である高度な先進医療も自ずとついてくると思います。

本年も引き続きのご支援をよろしくお願いいたします。

避難訓練が実施されました

防災委員 中村 雅典

平成23年11月19日16時から旗の台校舎において「東京湾を震源とする震度6強の地震が発生した」との想定で避難訓練が実施されました。想定された条件は「エレベーター使用不可、電話は内線・PHSのみ使用可、水道とガスは使用可、激しい余震により建物が倒壊する危険があるので屋外へ避難する。」というものでした。避難場所は中庭と上條講堂前に設置されました。

16時に「地震発生」の全館放送があり各自初期対応(自身の保護)、次いでガス栓・電源の遮断等の火元確認が行われました。その後全館放送による避難の指示があり、各指定避難場所への移動が行われ、避難場所に設置された受付にて各部署の避難人数の届け出が行われ避難訓練は終了しました。本訓練には学生・職員合わせて1084名が参加いたしました。



教授就任のご挨拶

口腔微生物学講座 桑田 啓貴

平成24年12月1日付けで昭和大学歯学部口腔微生物学講座を担当させていただくことになりました桑田啓貴と申します。昭和大学歯学部の皆様に、歯学部だよりのこの場をお借りしてご挨拶を申し上げます。



私は、平成9年に大阪大学歯学部を卒業後、大学院では口腔細菌学教室に所属し、レンサ球菌の莢膜に関する研究で学位を取得しました。その後、大阪大学微生物病研究所や九州大学、京都大学などで宿主防御機構、特に自然免疫系におけるシグナル伝達制御メカニズムの解明に取り組んできました。自然免疫に関する研究は2011年にノーベル賞受賞対象ともなり、医学分野では臨床応用されつつある一方で、歯科領域における自然免疫の関わる疾患については未解明の部分が多く残されています。たとえば、普段の歯科治療において日常的に遭遇する難治性慢性炎症の誘導メカニズムなどはその好例と言えます。そこで、私たちの研究室では、治療に役立つ基礎研究を目指し、臨床領域の先生方と共同でプロジェクトに取り組み、新規治療法の開発など歯科でのニューフロンティアを開拓していきたいと考えています。また、歯学部講義「感染と免疫」では、従来の微生物学に最先端の免疫学を加え、系統的かつ網羅的微生物学の講義を構築し、学生の歯学を含めた医学全般への理解を深め、本学の特色であるチーム医療志向の歯科医師養成に取り組みます。

12年のブランクを経て歯学部に戻った当初は近年の歯科大学事情に疎く、迷う事も多かったのですが、幸い当教室の森崎講師、有本講師、深町助教、片岡助教、谷口助教といった実力派スタッフに助けられ、次第に軌道に乗りつつあるように思います。

今後、みなさまと一緒にお仕事できることを大変楽しみにしております。その上で、昭和大学歯学部の更なる発展に貢献出来れば望外の喜びです。若輩者ではありますが、今後ともご指導の程よろしく願います。

行事予定

広報委員長 井上 富雄

- 2月2日(土)、3日(日): 第106回歯科医師国家試験
- 2月16日(土): 歯学研究科Ⅱ期入試
- 2月17日(日): 歯学部4年生 OSCE
- 2月24日(日): 選抜Ⅱ期・センター利用Ⅱ期・編入学Ⅱ期入試
- 2月27日(水): 歯学部4年生 CBT 追・再試
- 3月7日(木): 歯学部4年生 OSCE 追再試験
- 3月15日(金): 大学院歯学研究科修了式
- 3月19日(火): 卒業式・第106回歯科医師国家試験合格発表

平成25年度「昭和大学被災地入学者のための高須奨学金」を募集します

歯学部学生部長 上條 竜太郎

本学では、客員教授高須克弥氏の寄附金により、東日本大震災の被災地(岩手・宮城・福島)からの平成25年度入学者を対象とした奨学金給付制度を設け、以下の通り募集することとなりました。本奨学金は、平成23年3月11日に発生した東日本大震災によって経済状況が急変した被災地からの入学者に対し、経済的不安の緩和・経済的支援・教育機会の均等提供を目的として給付するものです。対象は岩手・宮城・福島県内の高等学校を卒業し、本学各学部、医学部附属看護専門学校の平成25年度1年次に入学する学生で、給付を希望する方です。給付額は入学する学部等により異なりますが、歯学部入学者の場合は100万円です。詳細については学事部入学支援課(03-3784-8026)にお問い合わせ下さい。

中华民国歯顎矯正学会に参加して

歯科矯正学講座 榎 宏太郎

平成24年12月14～17日に、台北市において、The 24th Annual Meeting of Taiwan Association of Orthodontists が開催され、医局員とともに研究成果を発表して参りました。本大会は、高雄市開業の許為勇先生(本学在籍:昭和59～62年)が学会理事長を務める最後の大会ということもあり、教室OBの先生方も台北に集い、二十数年来の旧交を温めることも叶いました。当講座には、初代の福原教授の頃から多くの台湾出身の先生が留学されております。その数は12名にのぼり、台湾の矯正歯科学会の中でも昭和大学OB会が組織されているほどです。

私と許先生とは同じ年に入局し、研究室の隣り合わせの席で不慣れな医局生活の中も、冗談を言いながら励まし合った思い出があります。驚いた事に、懇親会で日本人として3人目の名誉会員に推挙されましたが、壇上でその彼から記念品を受け取る時、昔にタイムスリップしたような運命の不思議さを感じました。あの3.11の際も、元院生からの「早くこちらに避難しろ」という連絡に涙しましたが、永く本学で学んだことを覚えていてくれる彼らに今後さらに友情を深めることを誓いました。

現在、台湾と中国とは微妙な関係にあります。しかし、本学に学んだ両国の先生達は今でも仲良く連絡を取り合っているとの事です。そんなところにも本学の良さが現れているのかもしれない。



第2回歯科病院ワークショップに参加しました

歯科矯正学講座 二木 克嘉

平成24年12月8～9日、神奈川県三浦郡のIPC生産性国際交流センターにて、第2回歯科病院ワークショップが開催され、各付属病院から看護師、放射線技師、管理栄養士、歯科技工士、歯科衛生士、歯科医師の計43名が参加しました。今回のワークショップは、「患者満足度を向上させるためには～理想の診療とは～」、「歯科技工士の業務確立と役割について」、「歯科衛生士の業務確立と役割について」の3つがテーマであり、その解決策を検討しました。私の班は「患者満足度を向上させるためには～理想の診療とは～」という課題でしたが、日常の診療の中で考える個人的なものではなく、病院全体という規模で患者満足度というものを考える貴重な経験となりました。また、ワークショップ終盤の討議・発表では、全てのテーマにおいて教育が論点になり、その重要性を再認識しました。さらに、小口理事長と小出理事の講評では、昭和大学創設の発端が「医療従事者の育成」であったことや、本学の最大の特徴は医系総合大学であり、チーム医療の利点を改めて痛感しました。最後に、このような素晴らしい機会を与えて頂いた昭和大学歯学部にご感謝申し上げます。



平成25年度 Multi Doctor 履修生を募集します

大学院運営委員会 佐藤 裕二

このプログラムは、次世代の歯学研究者を育成するために、学部在籍中に、学部のカリキュラムに並行して、科目等履修生として、大学院の教育を受け、研究マインドを醸成するものです。すなわち、学生の中に大学院の勉強・研究に触れてみるものです。対象は現在3、4、5学年在籍者です。大学院入学後、2年間で最高8単位を認定し、修了要件単位数に算入することができます。その場合には、大学院の期間を1年間短縮できる場合もあります。

現在、4年生5名、5年生6名、6年生5名が本プログラムに参加しています。登録料が3万円で授業料は年間5万円です。出願締め切りは3月1日で、試験は3月8日です。熱心な学生さんに、このプログラムのことをぜひ紹介してください。

大学院歯学研究科専門医コースが創立されます

大学院運営委員会 佐藤 裕二

専門医取得を希望する大学院生に十分な臨床実習と専門医取得の準備を行うことを可能にするために、臨床実習の充実を目的とし、大学院希望者の多様なニーズに応えることが目的です。来年度の大学院入学後に主科目・副科目選択時に申請を行います。

「大学院での臨床実習による単位が10単位以上（総単位30単位以上のうち）」であり、「日本歯科医学会専門分科会・認定分科会で、専門医・認定医の取得が可能な学会に加入し、3回以上の学術大会・講演会へ出席する」ことが条件です。これを満たすと、単位取得の制限が緩和されます。

研究だけではなく、臨床も頑張りたい大学院生には良い制度であると思います。

南カリフォルニア大学歯学部 Residency Program に在籍して

歯学部28回生 安藤 彰啓

私は現在、アメリカにある南カリフォルニア大学歯学部の Center of Orofacial Pain and Oral Medicine にレジデントとして勤めています。

Orofacial Pain とは、顔面に関するペインクリニックのようなもので、三叉神経痛、神経障害性疼痛や、顎関節症から頭痛までの診療に携わっています。Oral Medicine とは、顎顔面部にできる疾患の診断、自己免疫疾患や口腔乾燥症などの診療を行います。日本では口腔外科が診療する内容ですが、天疱瘡、帯状疱疹、口腔乾燥症などは、外科処置では治りませんか？内科的マネジメントが必要なので、アメリカには必然的に口腔内科という科が存在します。

レジデントプログラムは、専門医になるためのトレーニングを受けるプログラムです。学費が必要なものが多いですが、私の在籍するプログラムのように逆に給料を貰いながら学ぶことができるものも存在します。毎日多くの患者さんを診療し、さらに勉強やプレゼンテーションなどに追われ、とても忙しいですが、充実した日々を送っています。

海外での診療に興味がある方や日本ではなかなかできないような経験をしたい方は、海の向こうへ羽ばたいてみてはいかがでしょうか。興味がある方は、いつでもご連絡ください。



3年生 臨床シナリオ・学部連携 PBL が実施されました

歯科医学教育推進室 片岡 竜太

昭和大学では「チーム医療ができる医療人」をキーワードとして、4学部連携教育を推進しています。この教育の仕上げは、5年生で実施する「学部連携病棟実習」です。昭和大学附属病院の各病棟で入院患者さんを1週間担当させていただく本実習では4学部学生グループが医療情報を共有した上で、患者さんにとって望ましい医療とは何かをディスカッションし、現場の医療スタッフに提案をします。「学部連携病棟実習」のシミュレーションとして、4年生では「病棟実習シミュレーション・学部連携PBL」を実施します。模擬カルテをシナリオとして、4学部学生が共有した情報を基に、患者さんの問題点を明らかにし、対応策をグループでディスカッションします。

3年生では「臨床シナリオ・学部連携PBL」を平成24年12月7日(金)、14日(金)、18日(火)に旗の台キャンパスと横浜キャンパスで600名に対して実施しました。SLE患者の骨髄炎や心機能が悪い脊柱管狭窄症術後の患者を主題としたPBLで、4学部の学生が専門分野の知識を基に、ディスカッションを行い、患者さんが有する問題を様々な視点で見て、プロブレママップという形で全体像をグループで共有しました。次にグループとして患者さんに対する治療・ケアについて考えました。未履修の内容が多いシナリオでしたが、学生は真剣に取り組み、グループの力を合わせて、患者さんの有する問題を共有し、治療・ケアプランを考え、18日に実施された発表会では、取り組んだ成果をしっかりと発表できたグループが大半でした。

学生は1年次に富士吉田で学部連携PBLを経験していますが、皆2年間の成長をお互いに驚き、専門的知識を身につけた仲間を尊敬しあう場面が多くみられました。さらに、各グループで学部の代表として、責任を持って発言することの重要性に気づき、医療人としての自覚が生まれたという声も多く聞かれました。

患者さんを4学部の視点から見て、ディスカッションすることにより、問題を多面的に把握し、信頼できる情報源を用いて問題解決をはかる能力は、「クリティカルシンキング」と呼ばれ、欧米では歯学部生が必ず身につけるべき能力として重要視されています。是非PBLを通じて、生涯学習とチーム医療ができるよりよい医療が提供できる歯科医師になってもらいたいと思います。



臨床シナリオ・学部連携 PBLに参加しました

歯学部3年 湯川 未郷

SLEを発症した20代女性が下顎骨骨髄炎になったという臨床的な内容で、学生チームで治療計画を立てました。グループのメンバーは医・歯・薬学部の3年生と保健医療学部2年生の学生で構成されており、1年次の寮生活での知り合いもいて、話し合いがスムーズに進みました。歯学部からは2人で歯科分野では協力して知識を出し合い発言することができました。他学部の学生は歯科の知識がないので発言の際に少し責任を感じ、チーム医療がどのようなものか想像できました。

討議や学習成果の発表において、他学部の知識も必要であったため、わからないことが多く難しく感じるが多かったです。班のメンバーとのコミュニケーションをきちんととり、自分の持っている知識や意見をきちんと伝えること、他人の発言をきちんと聞くことが大切であると思いましたし、他学部の知識も知っておく必要があるということもわかりました。また、専門用語を使うと他学部の学生に伝わらない事がわかり、例えば「う蝕」という言葉やパノラマX線写真の見方がわからない人がいました。説明する時には他学部にもわかるように説明する事が大切であると感じました。将来患者さんにはわかりやすく説明したいと思いました。

歯科医院に来院する患者さんも全身疾患を有する場合があります。疾患や薬のことを学ぶ事も重要であると改めて感じました。歯科医師は口腔内の診察だけではなく患者さんのQOLを考慮し、治療に対する希望や今後の生活の事を考えて治療方針を決め、必要に応じて様々な職種の人が協力するチーム医療も必要であると感じました。将来の実習や医療人となった時にこの経験を活かしていきたいと思いました。



受賞

広報委員長 井上 富雄

勝又 桂子 歯科保存学講座総合診療歯科学部門：
第5回日本総合歯科協議会において最優秀発表賞

編集後記

口腔解剖学講座 野中 直子

入学試験の時期になり、お忙しいにもかかわらず、原稿執筆を快くお引き受けいただきました先生方に深く感謝いたします。

昭和大学そして皆様にとりまして、
すばらしい一年となりますようお祈りしております。

